

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの 重要性と課題

千葉大学大学院看護学研究科附属
専門職連携教育研究センター 特任教授
日本保健医療福祉連携教育学会 IPE推進委員会委員長
大塚真理子

本日の内容

1

IPE/IPWとチーム医療

2

コンピテンシーについて

3

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの現状

4

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの重要性
と課題

英国におけるIPE/IPWの経緯

1998年
ブリストル小児病院の手術
(医療事故)

2000年
Victoria Crinvue事件
(児童虐待)

コミュニティケアの進展
専門職教育の学際化

2001年保健省の政策

- ＊生涯教育・基礎教育課程
両方でのIPEの推進を提起
- ＊高等教育機関に対して
2004年まで専門職連携教育
の推進を勧奨

大嶋伸雄・高屋敷明由美・藤井博之：英国における保健医療福祉専門職連携教育
(IPE) の発展と現況, リハビリテーション連携科学, 18(1)16-26 2007

新井利民：英国における専門職連携教育の展開, 社会福祉学, 48(1) 142-152 2007

CAIPEによるIPEの定義

Interprofessional Education occurs when two or more professions learn with, from and about each other to improve collaboration and the quality of care (CAIPE, 2002)

CAIPE : the UK Centre for the Advancement of Interprofessional Education

専門職連携教育（IPE）とは、複数の領域の専門職者が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所でともに学び、お互いから学び合いながら、お互いのことを学ぶこと。

埼玉県立大学編：IPWを学ぶ利用者中心の保健医療福祉連携中央法規出版、2009

専門職連携実践（IPW）

Interprofessional
専門職の**相互作用しあう学習**
のうえに成り立つ協働関係

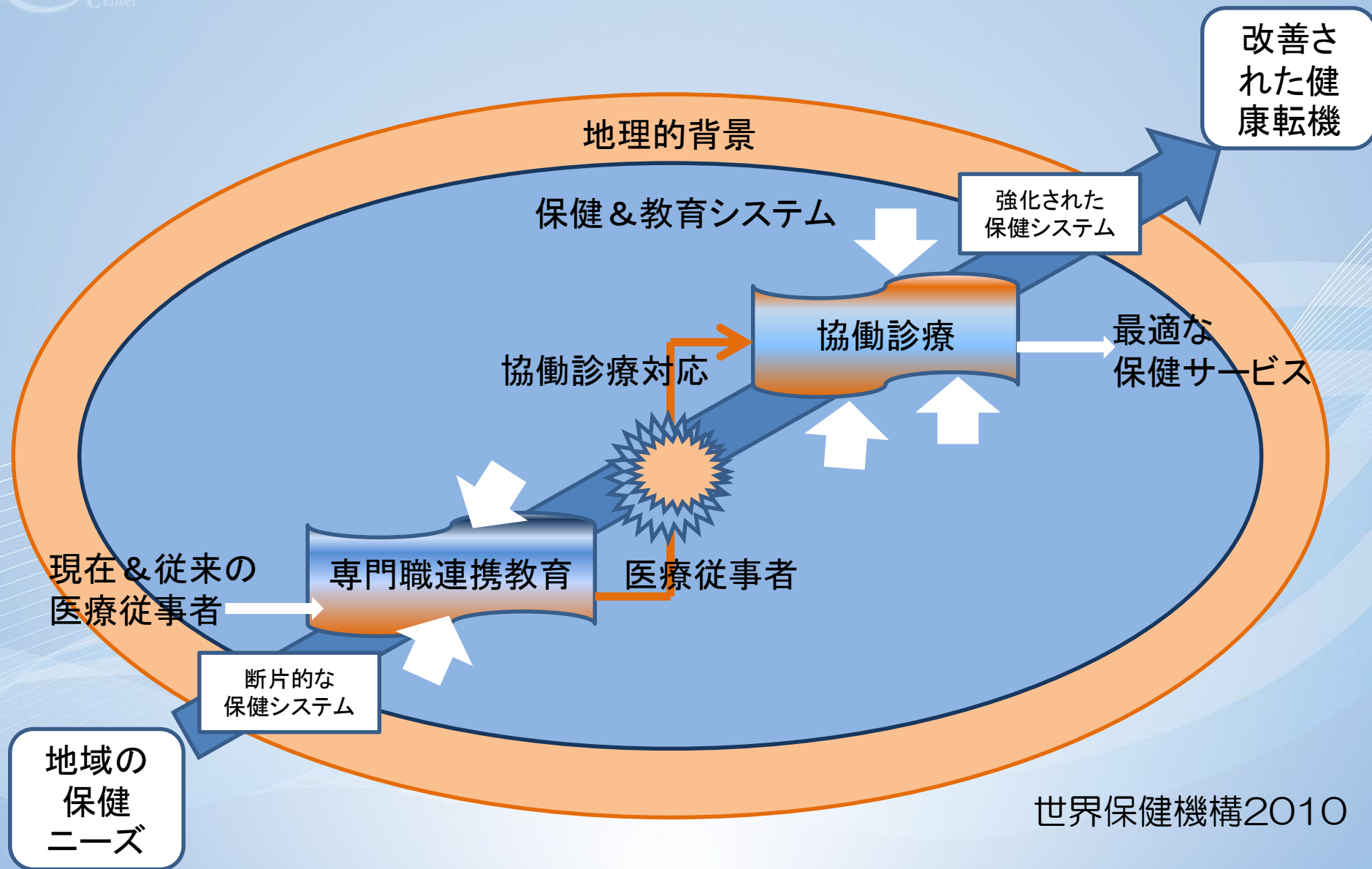
IPE:専門職連携教育
(Interprofessional Education)

複数の領域の専門職者が、
連携およびケアの質を改善す
るために、**同じ場所でともに
学び、お互いから学びあいな
がら、お互いのことを学ぶこと**
(CAIPE, 2002)

IPW:専門職連携実践
(Interprofessional Work)

複数の領域の専門職が、そ
れぞれの知識と技術を提供し
あい、**相互に作用しつつ、共
通の目標の達成**を患者・利用
者とともに目指す援助活動

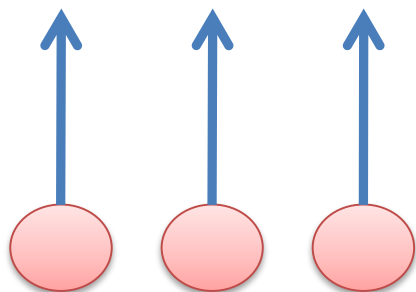
* 専門職連携教育 & 協働診療の行動のためのフレームワーク



専門職によって行われている実践のタイプ

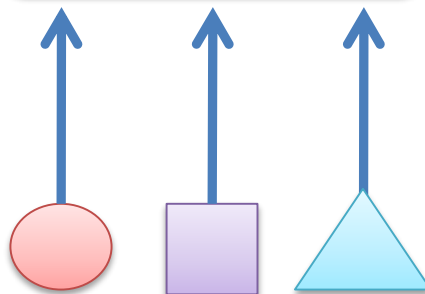
単一の職種に
よる実践

支援活動



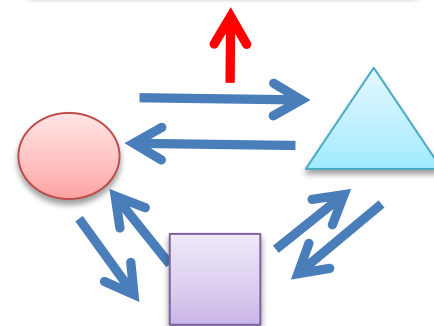
多職種による
実践

支援活動



IPWによる実
践

支援活動



チーム医療

チーム医療の歴史

* 病院の誕生

- 病院における「人間関係」「チーム」
- 1970年代「チーム医療」

* 新しい医療関係職種誕生

- 国家資格化、「専門化」
- 「合理化」、効率化

* 近代医療を補完するもの、近代医療そのもの

細田満和子：「チーム医療」の理念と現実 看護に生かす医療社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、P.16-29、2003

医療従事者が捉える「チーム医療」

-医療従事者がとらえる「チーム医療」を類型化すると

専門性志向

専門性を備えて専門性を
発揮しよう

患者志向

患者自身や患者の問題解
決を最優先しよう

職種構成志向

チームのメンバーとして
複数の職種が位置づけら
れていることに関心を寄
せる

協働志向

複数の職種が対等な立場
で協力して業務を行って
いく

-4つの要素の緊張関係が「チーム医療」の困難につながっている

チーム医療のモデル

モデル	特 徴	例
マルチディシプリナリー	サービス提供者が個別にケア、連携・協働不十分	救急などの医療チーム
インターディシプリナリー	サービス提供者の連携・協働によるアセスメント・ケアプラン、サービス提供者間のコミュニケーション	在宅サービスチームなど
トランスディシプリナリー	役割開放、意図的・計画的な職種間の役割の横断的な共有	リハビリチームなど

チーム医療推進協議会のHPから

➤ チーム医療とは、一人の患者に、複数のメディカルスタッフ（医療専門職）が連携して、治療やケアに当たることです。

➤ チーム医療の理念 前文

我々メディカルスタッフは、患者に必要な医療や情報の提供に際し、高い使命感を持ち、患者の生命と尊厳を守りながら、その職務を遂行してきました。しかし、医療の高度化や超高齢化社会の到来から、メディカルスタッフの役割はさらなる深化と協働を期待されています。

これからは更に、それぞれのメディカルスタッフの専門的知識及び技術の進歩を土台としながら、各職種との連携によって、患者中心の医療を推進しなければなりません。その際、患者個々の疾病や障がいのみではなく心理面や社会面を見据えた全人的評価は欠かせないと考えています。

チーム医療の理念

IPE/IPWの7つの視点

前文

1. 患者中心の医療の推進

- 1) 我々は、常に患者中心の医療を提供します。
- 2) 我々は、我々の業務の対象を疾病だけではなく、人格ある人間とし、尊厳をもって接します。
- 3) 我々は、患者の社会的背景や家族的背景、そして個人の思想信条さえも配慮した医療を提供します。
- 4) 我々は、患者及び家族の意向を十分に反映した医療を提供します。

2. 高いレベルの専門性の推進

- 1) 我々は、専門職として、それぞれの専門性において、高いレベルの知識と技術の習得に努めます。
- 2) 我々は、それぞれの専門的技術の標準化を果たします。
- 3) 我々は、高いレベルの専門性に基づいて、安全で効果的な業務を遂行します。

3. 情報共有の推進

- 1) 我々は、常にチームとしての方針を共有します。
- 2) 我々は、カンファレンス等に積極的に参加し、情報共有に努めます。
- 3) 我々は、実践した業務を適切に記録・保管管理します。
- 4) 我々は、患者情報の漏えいに最大の注意を払います。

4. チーム医療の推進

- 1) 我々は、他のメディカルスタッフの業務に関心を払い、医療チーム全体の**統合性**の確立に努めます。
- 2) 我々は、他のメディカルスタッフの専門性に敬意を払います。
- 3) 我々は、自らの専門性を堅持しつつさらなる高みを目指すと共に、他のメディカルスタッフとの**協働意識を育てます**。
- 4) 我々は、チーム医療の結果を**統合的に**評価します。
- 5) 我々は、学生教育の段階から、チーム医療の概念を発達させるために、連携教育を推進します。

- ① ケアの質の向上に努めること
- ② 利用者と家族のニーズに焦点を当てること
- ③ 利用者と家族とともに取り組むこと
- ④ **他の専門職から彼らのことについてもともに学ぶこと**
- ⑤ それぞれの専門職を尊重すること
- ⑥ 自分の専門的業務の質を高めること
- ⑦ 専門職としても満足度を上げること

連携

- 互いに連絡を取り協力して物事を行うこと（大辞泉）
- 連絡を密に取り合って、一つの目的のために一緒に物事をする（大辞林第三版）
- 異なる分野が一つの目的に向かって一緒に仕事すること（前田1999）



別個の組織
随時の情報交換
「点」へのサー
ビス

異なる組織
定期的な業務提携
「線」で結ばれる

一つの組織
恒常的なつながり
「面」としてシス
テム化

（前田信雄：保健医療福祉の統合，P.13-15，勁草書房、1990）

多職種連携・協働、そして サービスの統合

異なる分野が一つの目的に向かって一緒に働くことによって、創造的な取り組みや新しいサービス提供ができる



協働

- 相互作用しながら一緒に働く
- 同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと

連携・協働
による創造
的な取り組
みが、新し
いサービスを
創出する

本日の内容

1

チーム医療とIPE/IPW

2

コンピテンシーについて

3

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの現状

4

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの重要性
と課題

コンピテンシーとは何か

- 1973年；アメリカの心理学者 デイビッド・C・マクレランドにとって提唱された
- 1990年代に、人的資源管理に導入されるようになった

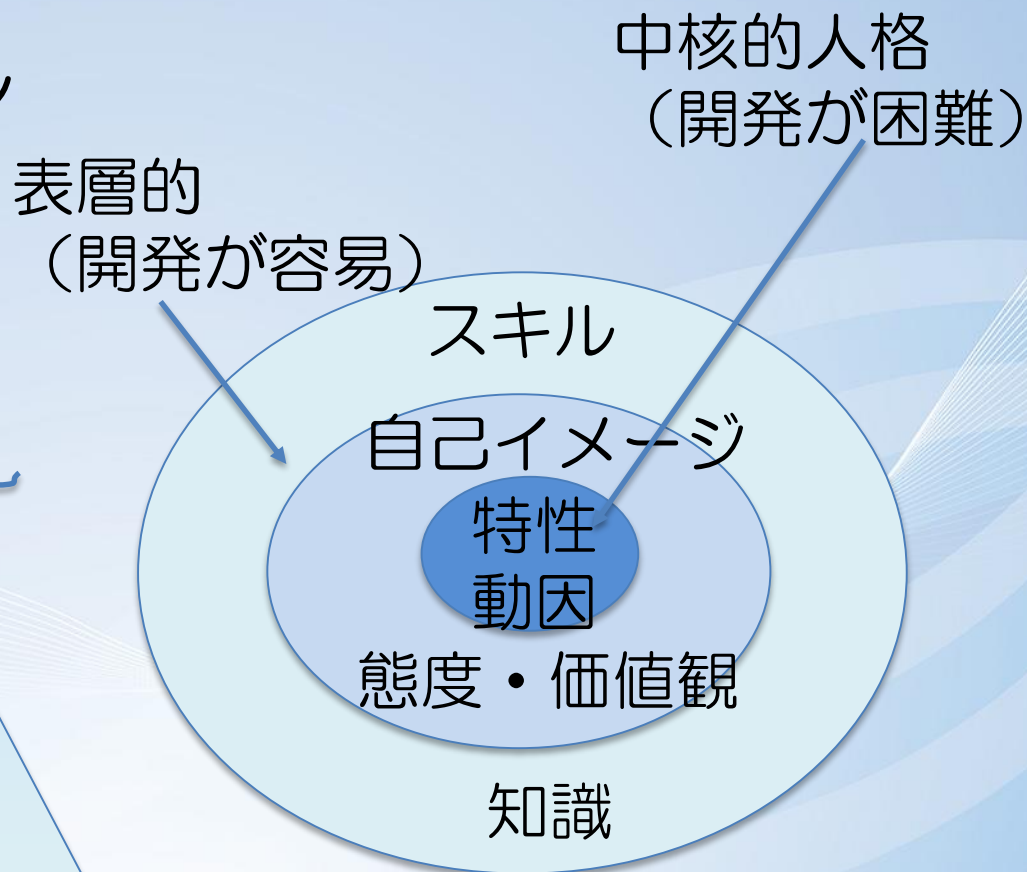
• コンピテンシーとは、ある職務または状況に対し、基準に照らして効果的、あるいは卓越した業績を生む原因として関わっている個人の**根源的特性**

- 高業績者の持続的な行動特性

ライル・M・スペンサー、シグネ・M・スペンサー著、梅津祐良、成田攻、横山哲夫訳；
コンピテンシー・マネジメントの展開[完訳版]、生産性出版、2011.

根源的特性

冰山モデル



ライル・M・スペンサー、シグネ・M・スペンサー著、梅津祐良、成田攻、横山哲夫訳；
コンピテンシー・マネジメントの展開[完訳版]、生産性出版、2011.

教育におけるコンピテンシーの導入

- OECD(経済協力開発機構)
- 教育の成果と影響に関する情報への関心が高まり、「キー・コンピテンシー（主要能力）」の特定と分析に伴うコンセプトを各国共通にする必要性が強調。
- OECDのプロジェクト「コンピテンシーの定義と選択」（DeSeCo）1997～2003年。PISA調査の概念枠組みの基本となっている。

DeSeCoのコンピテンス概念

- 乱立する能力概念を整理し、OECDの能力評価プログラムの理論的・概念的な基礎づけを行う。

• コンピテンスとは、ある特定の文脈における複雑な要求に対し、認知的・否認知的側面を含む心理－社会的な前提条件の結集を通じて、うまく対応する能力

(Rychen&Salganik 2003)

コンピテンスのホリスティック・モデル

コンピテンスを要求と文脈と
内的構造の関係として捉える

要求志向の
コンピテンス

例：
協力する能力

文脈

コンピテンスの
内的構造

協力に
関連した

知識
認知的スキル
実践的スキル
態度
感情
価値観・倫理
動機付け

DeSeCoのキー・コンピテンシー

- ①「個人の人生の成功（QOL）」と「うまく機能する社会」を実現するために必要な能力。
- ②人生の様々な局面において関連性をもち、すべての個人に対し保障すべき能力
「道具を介して対象世界と対話し、異質の他者と関わり合い、自分をより大きな時空間の中に定位しながら人生の物語を編む能力」

カテゴリー	下位概念
＜カテゴリー1＞ 道具を相互作用的に用いる	A.言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる B.知識や情報を相互作用的に用いる C.テクノロジーを相互作用的に用いる
＜カテゴリー2＞ 異質な人々からなる集団で相互に関わり合う	A.他者と良い関係を築く B.チームを組んで協同し、仕事する C.対立を調整し、解決する
＜カテゴリー3＞ 自律的に行動する	A.大きな展望の中で行動する B.人生計画や個人的プロジェクトを設計し、実行する C.権利、利害、限界、ニーズを擁護し、主張する

松下佳代: <新しい能力>による教育の変容 ―DeSeCoキー・コンピテンシーとPISAリテラシーの検討、日本動労研究雑誌、No.614/September,2011

医学教育における コンピテン基盤型教育

- 1978年 McGaghieらがコンピテンス基盤型カリキュラムを発表
- 2000年以降医学教育に拡大
- 「何を教えたか」ではなく、「結果的に何が習得できたか」に着目して教育
- カリキュラムの到達目標に、学習者が学習の成果としてどの程度到達したかが重要
- カリキュラム構築は、コンピテンスをプログラムの学習到達目標として設定することから開始
- 学習成果の測定

医療人としてのコンピテンスとは

- 医療者が実践のために必要とする能力（コンピテンス）を習得することが重要

• 職業人としてのコンピテンスとは、患者個人と社会の利益のために、日々の実践において、コミュニケーション、知識、技術、臨床推論、情緒、価値観、振り返りを習慣的かつ思慮深く利用することである

(Epstein, Hundert 2002)

コンピテンス基盤型教育の特徴

1. 学習者中心の教育
2. 医療者の質保証の必要に応える教育
 - ・一貫したカリキュラムの作成
3. 形成的評価を重視（多彩な評価方法）
4. コンピテンシー基盤型カリキュラムの開発
 - ・コンピテンシーの同定と記述、マイルストーンを定義したカリキュラムの作成

本日の内容

1

IPE/IPWとチーム医療

2

コンピテンシーについて

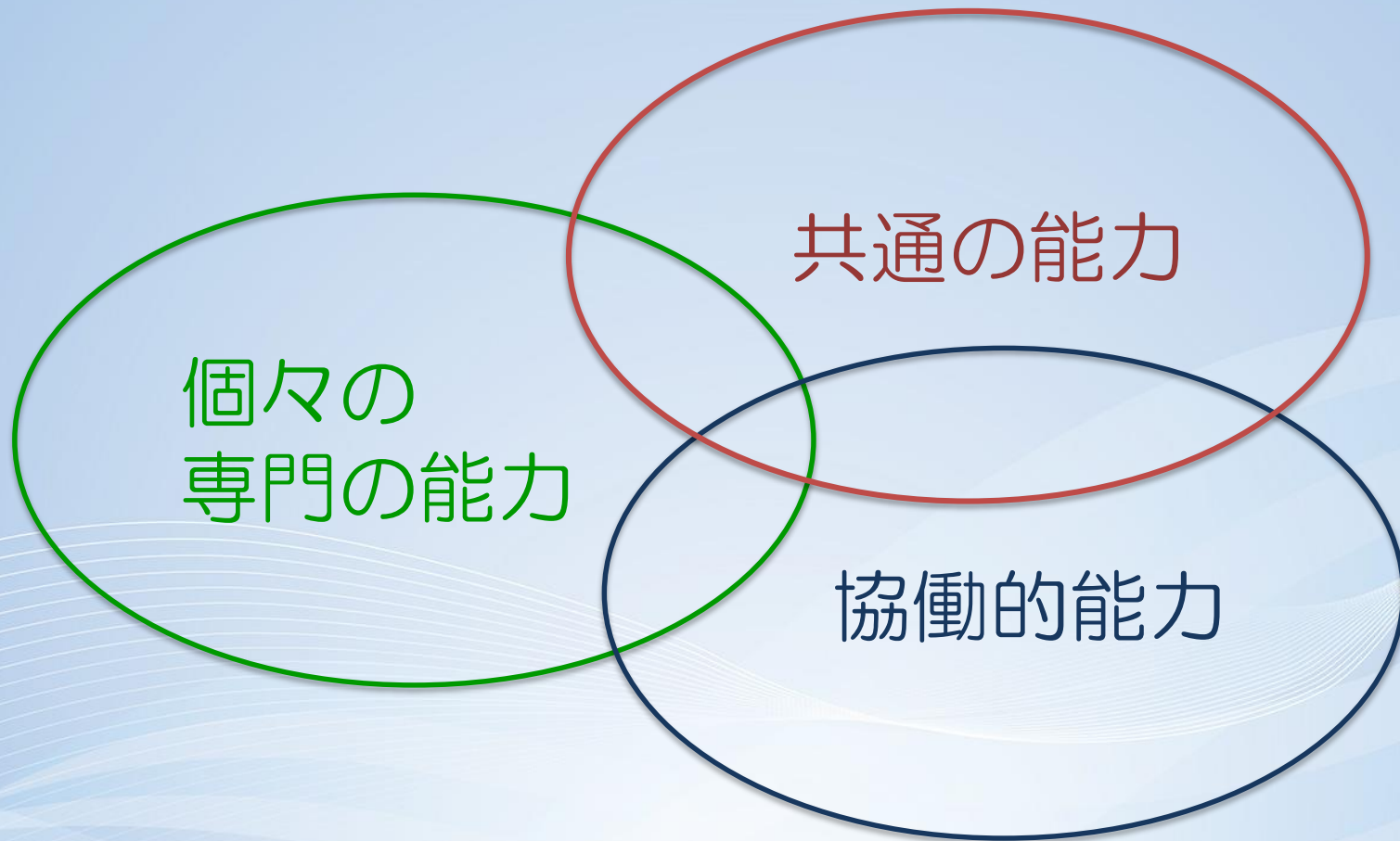
3

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの現状

4

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの重要性
と課題

専門職連携能力のコア・コンピテンシー

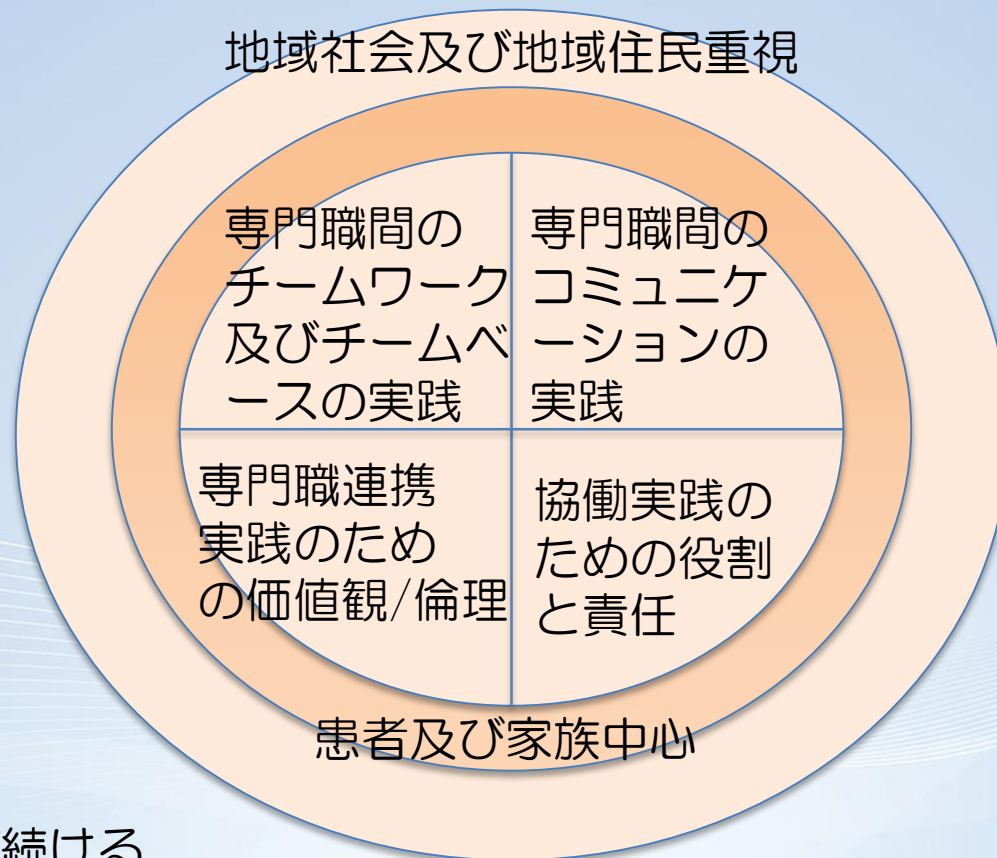


Barr, Hugh : A competency-based model of interprofessional education is commended to remedy weaknesses in knowledge-based and attitude-based models. It distinguishes between common, complementary, and collaborative' competences. Journal of Interprofessional Care, 12(2), 181-187, 1998

カナダのIPWコンピテンシー

役割の明白化	自分自身と他の専門職の役割を理解し、その知識を利用者の目標に達するために適切に活用できる
利用者中心のケア	ケアの構築、実行において患者、家族、地域をパートナーと位置付ける
チーム機能	チームダイナミックスの原則とチームの過程を創りあげる効果的な多職種連携を理解する
協働的なリーダーシップ	協働的な実践モデルを支持するリーダーシップの原則を理解し、活用できる
多職種間のコミュニケーション	異なる専門職が協働的で敏感で信頼できる態度でお互いに話し合う
多職種の対立の解消	意見の対立が生じた時に積極的に、建設的に働きかけて解決する

アメリカのIPWコンピテンシー

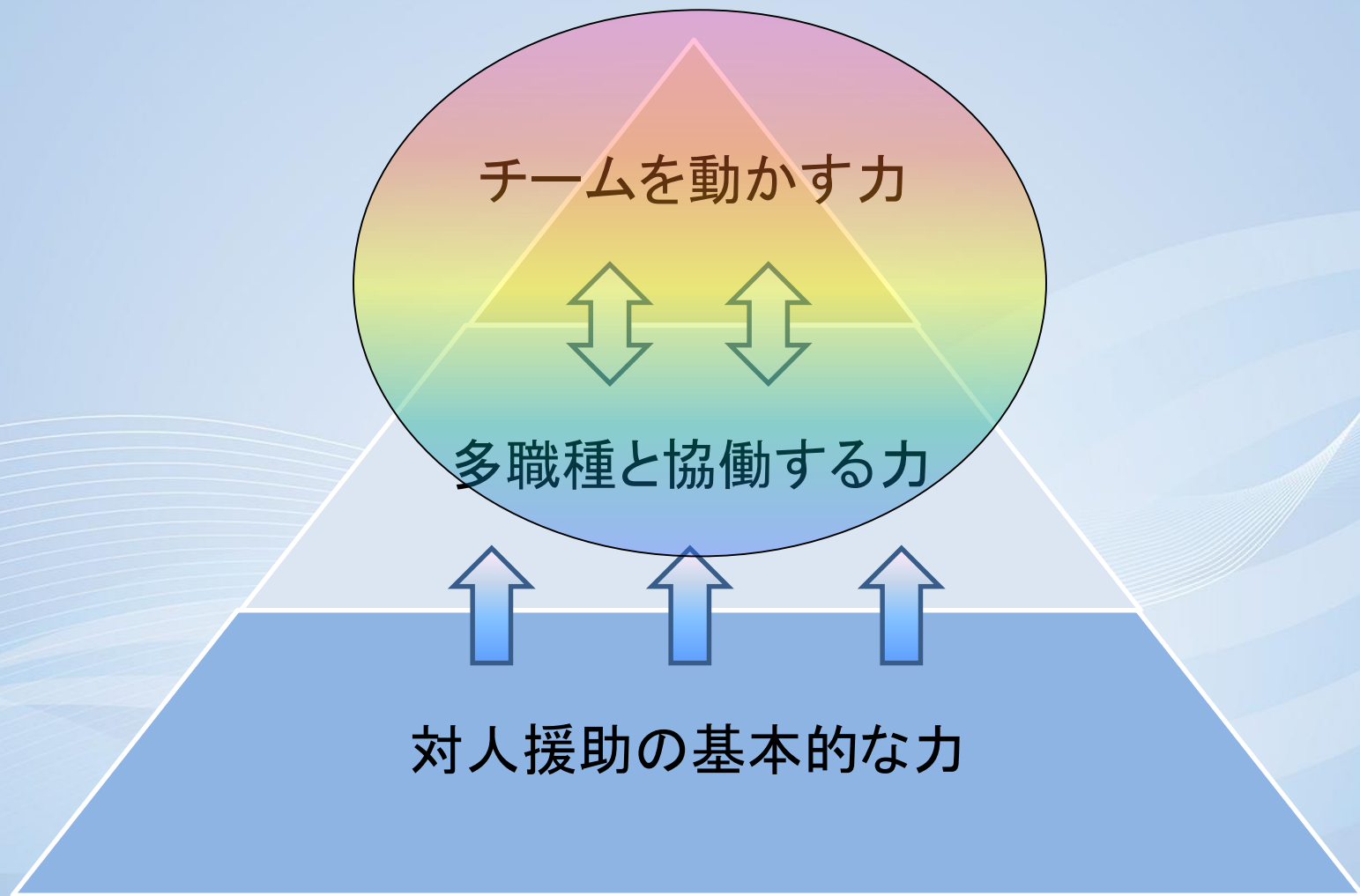


実践を通して学び続ける

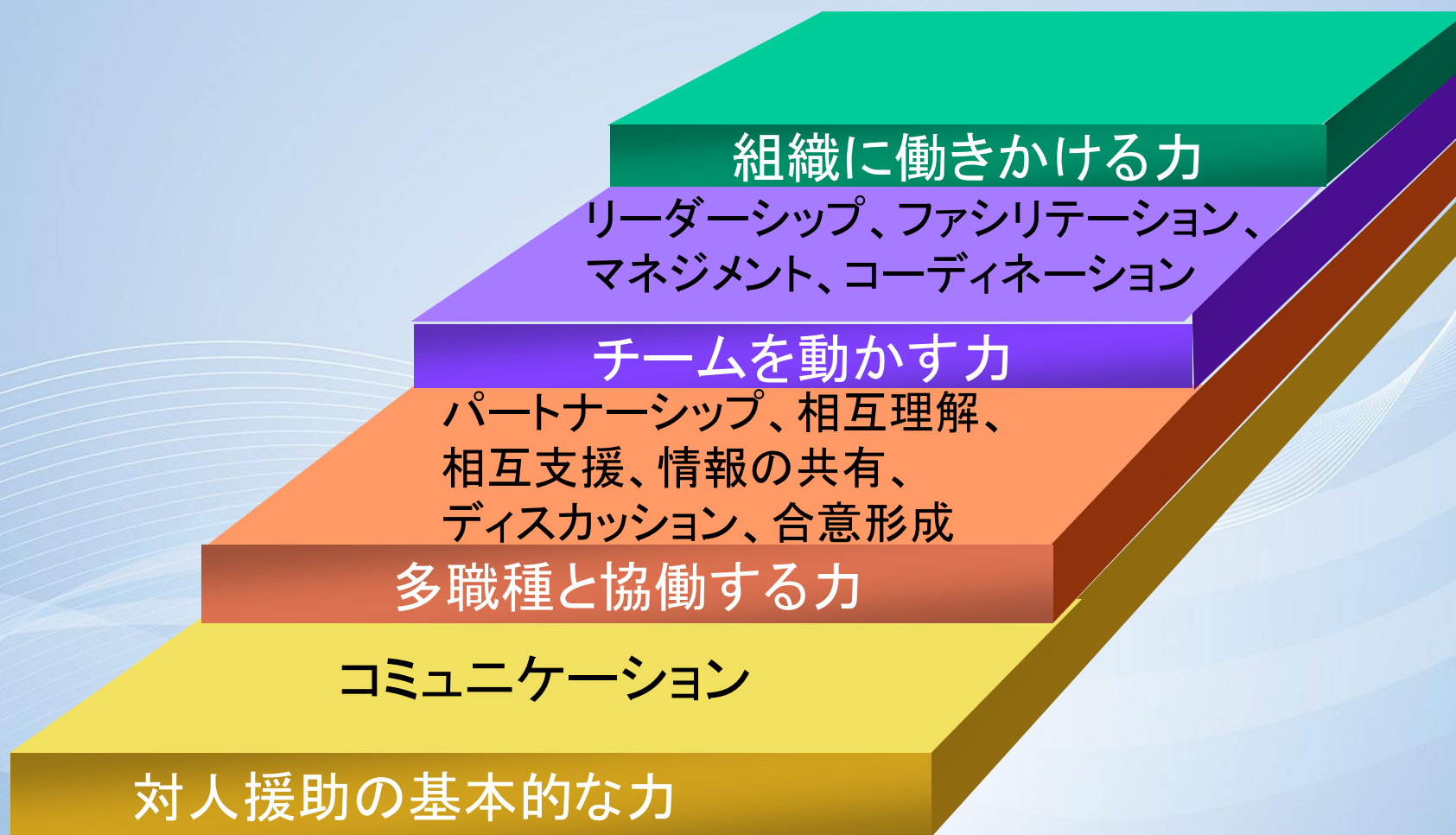


2011 American Association of Colleges of Nursing, American Association of Colleges of Osteopathic Medicine, American Association of Colleges of Pharmacy, American Dental Education Association, Association of American Medical Colleges, and Association of Schools of Public Health.

IPWに必要な専門職のコンピテンシー



IPWに必要な専門職のコンピテンシー



多職種連携コンピテンシー

患者・利用者中心	患者／サービス利用者のケア向上のために、協働する職種間で患者／サービス利用者、家族、コミュニティにとっての重要な関心事／問題に焦点を当て、目標を共有することができる。
職種間コミュニケーション	患者／サービス利用者のケアの向上のために、職種背景が異なることに配慮し、専門的知識や意見を互いにやりとりすることができる。
パートナーシップ	患者／サービス利用者に協働したケアを提供するために、相手を尊重し、信頼関係を築くことができる。
相互理解と職種活用	患者／サービス利用者に協働したケアを提供するために、職種の特徴や役割および活動状況を理解しあい、活かすことができる。
ファシリテーション	患者／サービス利用者に協働したケアを提供するために、関係構築を援助し、各専門職が能動的に関われるように働きかけることができる。また、時に生じる職種間の葛藤に対応することができる。
リフレクション	他者と協働する能力を高めるために、連携協働した経験を俯瞰し、自身や他者の感情、試行、行為、役割、価値観を再考することができる。

本日の内容

1

IPE/IPWとチーム医療

2

コンピテンシーについて

3

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの現状

4

IPE/IPWにおけるコンピテンシーの重要性
と課題

新しい教育体系を学際的に作るために

資格免許取得
卒業

6年

5年

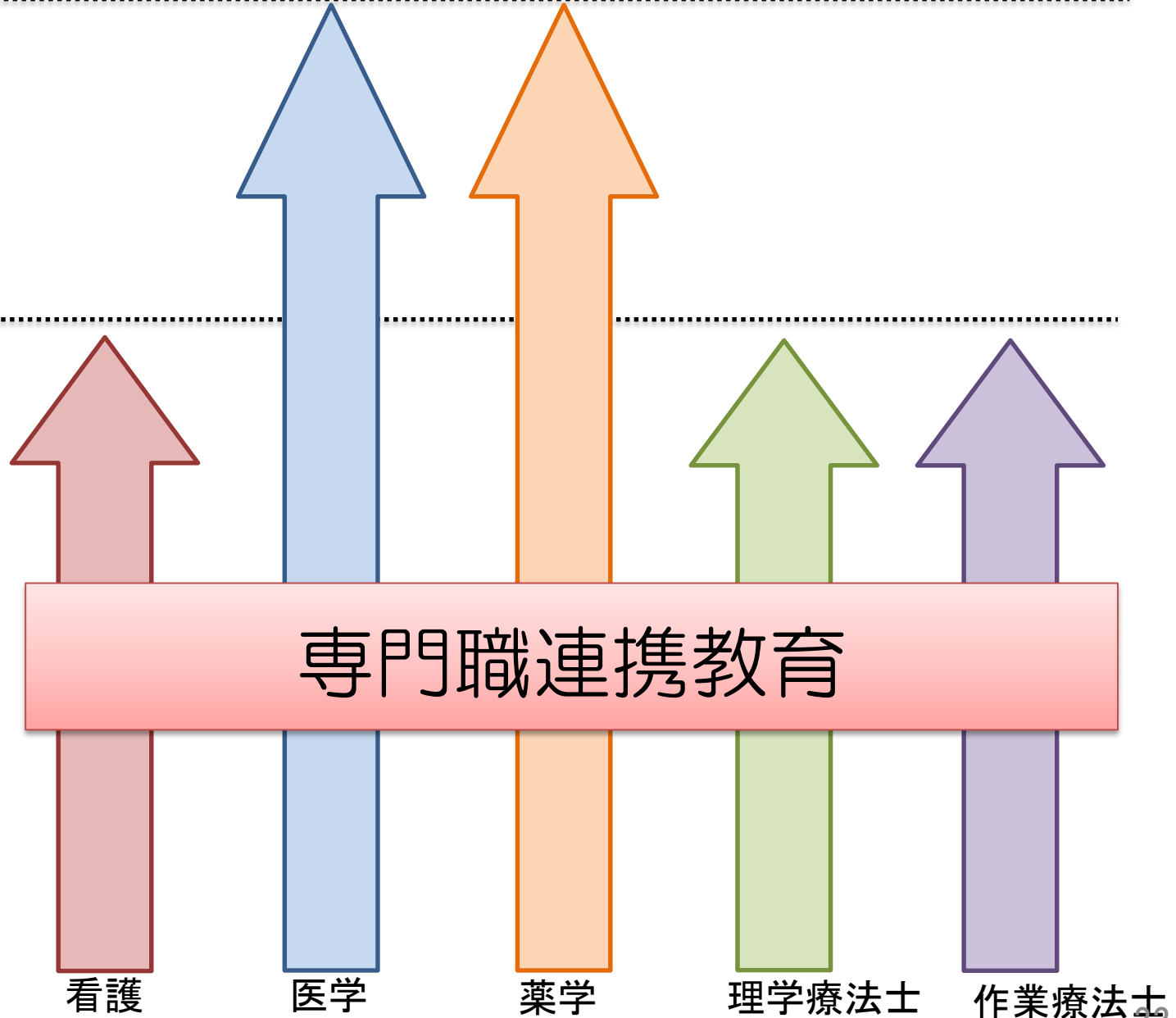
資格免許取得
卒業

4年

3年

2年

1年



重 要 性

- 各分野の専門職養成教育にとって、IPEはイノベーションとなる
- 共通認識をもって取り組む必要がある
- 各分野の専門職養成教育にとって、IPWは当たり前のことであるが、個人のセンスに任されており、体系化した生涯学習としては不十分である
- 各自が自分の能力を自覚し、意図的に成長できる指針が必要である
- 組織が意図的な人材育成を行い、組織内・地域のIPE/IPWの質保証を行う必要がある

課 題

- チーム医療を担う専門職誰もが持つべき能力としての位置づけができるか？
- OECDが示すカテゴリー2（異質な人々からなる集団で相互に関わり合う能力）との関連性をどう示すか？
- 実践の事実から協働の実践知を取り出すことができるか？
- 学際的に合意することができるか？